

ハウビンダ採集の感激

吹 矢 進*

昭和59年8月13日に、博物館主催の親子同伴の植物採集会が持たれた。坪田館長はじめ渡辺定路先生・林幸子先生・酒井幸雄先生の講師引率のもとでの金津町畝市野々での採集であった。自分としては、ここは初めての採集地であり、皆といっしょに列を組んであれこれ捜しながら歩くことは、とても楽しいものであった。

午後になり自由採集の時間が持たれた。私はひとりで何か変わった植物がないかと思ひ谷すじにそってさか登った。うっそうとして暗くじめじめした谷すじには、大きな岩が点々としており、それらの岩には緑したたるハイホラゴケがマントのように岩一面に生育していた。ノキシノブ・オオクジャクシダ・ノコギリシダなどを採集しながら谷すじをどんどんさか登った。もうそろそろおりようかと思ひ、前方のうっそうとした大きな岩に目をやった時である。

「ギクッ」として体の中に熱いものが走った。その岩の下
の暗い所 $\frac{1}{3}$ くらいの所に今まで見たこともない穂をたれた
ようなシダが、ズラッと並んでいたからである。それは自
分が今まで作ってきたシダの標本130種類にはいっていな
い初めてのシダであった。

さっそく渡辺先生に見ていただいた所、これはハウビンダというシダで、福井県ではまだ確認されていない種であることを知らされ、また感激を新らたにした。3年前、永平寺の奥で始めてミヤマシケシダに出合い、その胞子のうのあまりの美しさに感激したことを思い出した。採集しながら山を歩いていると幾度となくこの感激を味わうことができ、楽しいかぎりである。

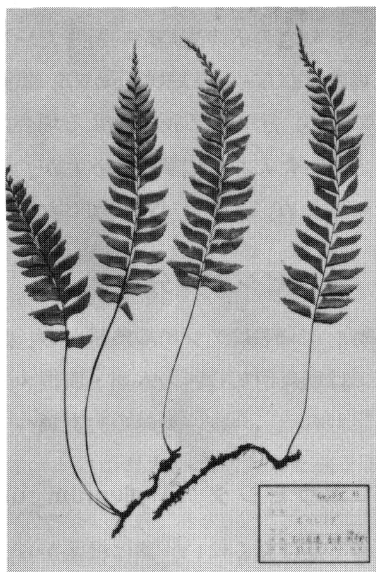


写真1. ハウビンダ(全長29cm)

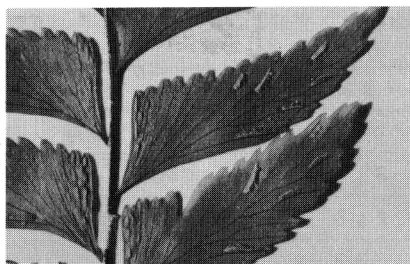


写真2. ハウビンダの胞子のう群
(小羽片の全長約3cm)



ハウビンダの生育場所

* 福井市明道中学校

採集場所と成育環境

金津町^{うね}畝市野々（福井県と石川県の境）

谷すじで近くに谷川が流れており、ハウビシダの生えている岩（前ページ図参照）は、うっそうとした落葉広葉樹に上をおおわれており、うす暗く湿気の多い岩である。ハウビシダが生えていたのはその岩の下の方の暗い所 $\frac{1}{3}$ くらいと、岩のまわりの土の上一部に限られていた。岩に直接生える場合はななめ下に垂れ下がりが、黒褐色の鱗片を密生した地下茎は岩の上をはい、きれいな緑色をしている。土のある所に生える場合は直立して生え、先が少したれ気味である。またこの岩のまわりの岩もたんねんに調べてみたが、他は一切見つからなかった。ここの環境が偶然にも成育に適していたため、ここだけに繁殖したものと思われる。

ハウビシダの分布

ハウビシダはアジアの熱帯から、東はハワイ・ポリネシア、西はアフリカまで広く分布する。日本では関東南部以西の本州・四国・九州に分布し、暖地に特に多い。福井県は裏日本の北限であると思われる。今後、奥越の方も調べて自生しているかどうか調べたい。

ハウビシダ *Asplenium unilaterale* Lam（チャセンシダ科）の特徴

地下茎は長くはい、葉は根茎からまばらに出て高さ30cm～40cmになる。葉は薄い草質で緑色をしている。根茎は直径約2～3mmで密に黒褐色の鱗片を生じる。鱗片は網の目状に区切られ、葉柄と中軸は、光沢のある紫色。胞子のう群は短い線形で、小羽片の中肋と辺縁の中間部より心もち辺縁側に寄る。陰湿な山中のがけや岩の上にはえる。

参考文献 田川基二：原色日本羊歯植物図鑑